**第６回　議会報告会での質疑・意見等の検討結果**

懇談会～お知恵はいしゃく～関係

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | **テーマ** | **皆様からの意見・要望等** | **議会の応答等** |
| **総　　務**  **常任委員会** | 消防団員担い手不足を解消するには？ | 消防団員を増やすためには報酬金額をあげてもいいのではないか。  自治会加入率が低くなっている今、消防協力金のあり方についても今後検討していただきたい。 | **（H28.6.23総務常任委員会での結果）**  **消防協力員については、全国多くの自治体の課題であり、消防と地域との関わりや災害に対する消防力の維持も含め、まずは、近隣市町と慎重に議論・検討をしていく必要があると考えています。** |
| 255名の消防団の定員数とういうことですが、将来を見据え、消防団員の定員数をあげて、予算を計上してみてはどうか。 | **（H28.8.17総務常任委員長より提出）**  **消防団員としての活動役割をどの世代にどのように担ってもらうのが良いのか見極めながら、適正な団員数や団員報酬の金額について検討していきたいと考えています。** |
| 消防団に入団した場合、町や消防団から勤務先に消防団活動に対する理解を得るために、正式な文書を出す試みをしてはどうか。そうすることによって、会社員も消防団活動に参加しやすくなるのではないか。 | **（H28.8.17総務常任委員長より提出）**  **団員の活動に際し、協力をいただいている事業が社会への貢献として広く認められるよう、消防団協力事業所として認定する制度があります。** |
| 消防団というと消火活動のイメージがあるが、実際はさまざまな活動を行っている。現在、女性消防団は防災の啓発活動等を行っているところであるが、女性や若い人だけでなく、年配の方が活動できる、防災の啓発活動や、ＰＲ活動に重点をおいてみてはどうか。そうすることによって消防団の定義が変わってきて理解が深まるのではないか。 | **（H28.8.17総務常任委員長より提出）**  **平成２８年度から「消防団の認知度をより上げる」ために、広報「たかねざわ」で「こちら女性消防団です」というコーナーを４月号から設け、毎月消防・防災をテーマに啓発記事の掲載を行っています。** |
| 消防団員を辞める年齢層が40歳前半までが多いので、元気な50歳以上の方も支援員として活動できるように考えほしい。 | **（H28.8.17総務常任委員長より提出）**  **平成20年度に消防団経験者のOBによる支援団員制度が導入される。現在、支援団員が27名が活動している。** |
| 認知症の行方不明者の捜索活動時には、地元の消防団が力を発揮する。消防団の実態をきちんとみて理解し、消防団の活動のＰＲが必要ではないか。  一部の消防団では、消火器の使い方などを高齢者に教えたりもしている。  地域の方が、様々なことに協力し合い、興味を持って消防団を育てる、見守ることをすると消防団は増えてくるのではないか。 | **（H28.8.17総務常任委員長より提出）**  **夏季点検には消防ポンプ操法競技会があり、各地域の方に見てもらい応援してもらうため、競技会の案内を回覧で周知するとともに、次世代を担う子どもたちに見てもらい、小さいうちから郷土愛を育み、やがて入団してもらえるよう各保育園や小学校にもチラシを配布し、町行政消防団が歩調を併せ積極的にPR活動を実践していくこととしています。** |
| 消防団の活動のPRをすることで、関心を持ってもらうことができればいいのではないか。また、農村部においても活力がでるように人口が増加できるような対策をしていただきたい。 |
| その他 | 雪が積もったときなどにすぐに消火栓がわかるように、消火栓に黄色などで色を付けてほしい。また、雪が積もったときにはみんなで消火栓の雪かきを最初にしていただくようにアピールしていただきたい。 | **（H28.8.17総務常任委員長より提出）**  **路面に消火栓を示す黄色の線と看板を付近に設置して位置を示している。** |
| 高齢者の免許証返納はどのようになっているのか。 | 免許証返納制度がある。６５歳以上の方が運転免許を自主返納すると、デマンド交通システム「たんたん号」乗車券（３３回分）が助成されます。   * 詳しくは地域安全課へお問い合わせください。028-675-8110 |
| **教育福祉**  **常任委員会** | 食育と福祉の充実をどう図る？ | 食育と健康づくりに関し、高根沢高校生が開発に携わった「焼きちゃんぽん」等の新しい食のメニューと地産地消及び生活習慣病の対策を関連付けて、町内産食材（作物）の栄養分析、成分分析を図り、健康食品をコンセプトにするのも一考かと思う。 | 大いに参考にして行きたい。食育と地産地消の取組みとして例えるなら、今、学校給食で使っている「米飯」は全量町内産である。蔬菜類の使用料は20％代にとどまっている。地産地消を進める上で、新鮮な食材で賄うこと。そして、フードマイレージを踏まえ、町内産の食材をさらに増やしてゆくように努力して行きたいと学校給食の例で示した。  **（H28.6.28教育福祉常任委員会での結果）**  **栄養や効能価値が高い「ゆず」などの開発が考えられる。まずは、ゆずに限らず、学校給食から対策を始めたい。今後、委員会で検討していきます。** |
| 地産地消を進める前提から、住宅地に住んでいる方に対して、どこに行けば地産の農産物が買えるかという情報が足りないので、ＰＲを積極的にやっていただきたい。 | **（H28.6.28教育福祉常任委員会での結果）**  **議員一人ひとりが情報を収集しPRを積極的に行うとともに、一般質問等で町農産物全般を含め質し、町全体の活性化を図ります。** |
| その他 | 介護保険会計の運営が厳しい状況にあるなら、介護保険事業の広域化を図ることなど改革を必要とする。 | 介護認定者と高齢化が強まる中、いずれの市町村でも介護保険会計の安定的な維持は難しい状況にあるが、高齢福祉計画の実効性を高めるよう努力して行きたい。  **（H28.6.28教育福祉常任委員会での結果）**  **国・県の動向を見守りつつ調査検討をしていきます。** |
| **建設産業**  **常任委員会** | 町を盛り上げるためのイベントとは？ | 元気あっぷむらなどで、相撲関係のイベントを行ってはどうか。町民が参加をしやすいような、赤ちゃん相撲などを大々的にやって、町外からの参加者も募ってはどうか。 | 元気あっぷむらでは、元気あっぷ夏祭り、商工会ではちょっ蔵秋祭り、軽トラ市などを行っている。  実行委員会でのイベントは、町民体育祭、たんたん祭りなど。たかねピアは、２９回、平成２０年まで行った。  **（H28.6.22建設産業常任委員会での結果）**  **町を盛り上げるためのイベントについて、町全体としてのイベントとして「たかねピア・花火大会」の必要性を建設産業常任委員会において十分検討し、より良い運営方法を研究して、復活に向けた方策を提言できるよう取り組んで行きます。** |
| 農家の作物のＰＲや実生活を表に出すイベントはどうか。 |
| あちらこちらでイベントをするのではなく、例えば農協、商工会、町がタイアップして一カ所にまとめて合同でイベントを行ってはどうか。そうすることによって、経費も抑えられ、大きなイベントになるのではないか。 |